

あ い つ の 一 言

中心発問で「心のノート」を活用した取組み

- (1) 主題名 広い心 [2 - (5)] 関連項目 [4 - (5)]
- (2) ねらい それぞれの個性や立場を尊重し、他の人の考え方や生き方から謙虚に学ぼうとする態度を育てる。
- (3) 資料名 「あいつの一言」
- (4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と生徒の心の動き	留 意 点
導 入	1 これまでの体験を振り返る。	この間の奉仕活動は、しんどいなと思えるくらい頑張れたかな。 ・ けっこうきつかった ・ しんどいほど頑張っていないかも	奉仕活動や清掃活動等での労働の大変さを思い起こし、資料への関与を円滑にさせる。
展 開	2 資料から登場人物の心情の変化を読みとる。	健太と渡辺はそれぞれ清掃活動にどのように取り組んでいましたか。 ・ <健太>仕方なく参加したので、活動に積極的でなかった ・ <渡辺>自ら進んで活動に参加し、ていねいに作業していた 「なんだよ。点数稼ぎかよ。」と言った健太はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・ 健太がマイナスイメージを持つ渡辺だけが誉められて悔しい気持ち 渡辺の言葉になぜ健太は顔を赤くしたのでしょうか。 ・ ひどいことを言った自分を許してくれた渡辺の心の広さを知ったから	資料の内容から二人の性格を考えさせ、それぞれの個性を理解することができるようにする。 健太の自分本位に考えてしまう心の弱さに気付かせる。
	3 「心のノート」 P.56, P.57 を参考に、価値に迫る。 4 自らの行動を振り返る。	人のよいところを素直に認めるのはなぜ難しいのでしょうか。 ・ 自分の方が上だと感じていたいから ・ 自分にゆとりがないから あなたは健太のように素直に人のいいところを認められなかったことはありませんか。	健太が渡辺の広い心を知り、内省している様子をおさえる。 自分とは違う考え方やものの見方から学ぶことで自らを成長させられることを伝える。
終 末	5 ものの見方、考え方には違いがあることに気付く。 6 「心のノート」 P.54 の絵を見ながら、教師の話聞く。	これからある絵について説明します。その絵を描いてみてください。周りの人と絵を見比べて見ましょう。 この絵は何に見えますか。 ・ アヒル ・ うさぎ	説明からイメージする内容を簡単な線画に表す。 人にはそれぞれ違った立場や考え方がある。そして、他の人から謙虚に学ぶことは難しいことではあるが、よりよく生きるために大切であることをおさえる。

「あいつの一言」

夏休み中の日曜日。八月も後半に入り、ゆっくり休める日はあとわずかだ。空を見あげれば、まさしく晴天。昨日は曇りだったのにどうして今日に限って、こんなに晴れているんだろう。健太はじつとしても噴き出す汗に苛立ちを覚えながら、グラウンドに立っていた。

「本日はお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。」

今日は清掃活動の日だ。学校の周辺の草刈りをする。生徒たちのほかに先生や保護者、地域の方々も集まっていた。

「来るんじゃないかった。」こんな思いが健太の頭の中をめぐり始めた。「佐々木だって田中だって、来てないじゃないか。」

昨日の部活動の後、顧問の先生からバスケットボール部は全員参加するように言われ、

仕方なく参加していた健太には、日曜日にわざわざ学校に集まっている人たちがひどく変わった人たちのように思われた。「何がボランティアだよ。あーあ。今ごろあいつら、ゲームでもしているんだろうな。」

清掃活動が始まった。学校の周りには実に多くの雑草が生えている。夏の日差しが照りつける中、グラウンドや花壇、校舎の周りなど、それぞれ担当した場所の草を取り始めた。

バスケットボール部は校舎裏の斜面を担当した。草刈り機を使わないと取れないような草が生い茂っている。健太たちの仕事は草刈り機で刈り取った草をかごに集め、捨てるというものだった。単純な作業だが、斜面での作業は大変だ。足場が悪く、高い場所での作業。草は嫌になるほどたくさんある。運んでも運んでも、次の草が上から落ちてくる。たった二時間の作業がなかなか終わらない。「早く終わらないかなあ。」健太がそう思い、ふと見ると、渡辺が一生懸命、作業をしていた。「渡辺のやつ、部活には熱心でなくせに、こういう作業では張り切つてら。」

渡辺はクラスであり目立つ存在ではない。健太とは同じクラスだが、ほとんど話をしたことがなく、お互いあまりあいさつを交わすこともない。健太が知っていることといえば、未提出者リストに常に渡辺という名前が載っていることや、彼が授業中に指名されるといつもどぎまぎしていることくらいだ。バスケットボールだって、自分の方がずっと上手だと健太は思っている。

「渡辺君はえらいね。」

一緒に草を集めていた隣のおばさんが言った。渡辺が誉められるなんて、健太が初めて見る光景だ。渡辺の作業ははいねいだと言うのだ。彼は草刈り機では取れなかった草をはいねいに抜いていた。おばさんに誉められて、恥ずかしそうにはにかむ渡辺の姿を見て、健太はなぜか腹立たしい思いにかられた。「僕だって働いているよ。かごを運ぶ回数だって、僕よりちょっと多いだけじゃないか・・・。」

健太は予定の時間が来ると、すぐに作業をやめ、集合場所に集まった。渡辺は作業で使ったかごを片づけてから少し遅れてやってきた。みんなが渡辺に温かい視線を送っているように思えた。汗だらけになって帰ってきた渡辺に、健太は思わず言葉を投げつけた。

「なんだよ。点数稼ぎかよ。」

一瞬にして辺りの和やかな雰囲気が変わってしまったのが健太にも分かった。健太は周りの人の視線が自分に突き刺さってくるのを感じた。自分でもなぜそんな言葉を言ってしまったのか分からなかった健太は、その場から逃げ出したい気持ちにかられた。みんなが見つめる中、渡辺は一瞬とまどった表情を見せたが、泥だらけの手で頭をかきながら、にっこり笑ってこう言った。

「分かつちゃったあ。何点取れたかな。」

渡辺の健太を氣遣う気持ち伝わり、健太は自分の顔がみるみる赤くなっていくのを感じた。

活用に生かすための実践報告

「あいつの一言」

1 主題の設定

人にはいろいろな立場があり、考え方があることを理解し、自分とは異なる考え方から学ぶことは、よりよく生きていくために必要なことである。しかしながら自分と異なる見方や考え方に会おうと、それを素直に受け入れることは難しい。

本資料では清掃活動を通して、日頃気付かなかった友だちのよさを素直に認められない主人公の戸惑いを読み取り、自分の価値基準だけで物事を判断したり、相容れない意見を受け入れられないなど、自分の姿を振り返らせることができる。

2 学期以降の人間関係が固定化してくる時期に、認め合い、学びあうことの大切さを考える機会として、この資料を活用できると思われる。

相手の立場を考えず、自分本位に考えてしまうことは誰にでもあることである。特に自分の考えと違うものを排除しようとする傾向が見られる生徒にポイントをおいて指導すると効果的である。

2 指導過程の工夫

導入の際、体験活動を意識して、それぞれの体験を生かした資料への関与ができるよう発問した。終末では、絵を描き、周りの友達と比べてみるという活動を行った。描いた絵を見比べる際には学級の雰囲気も和らぎ、教師の説話をリラックスして聞けるようになった。

清掃活動について扱った資料であるため、内容項目4 - (5)の勤労の価値に流れないように注意する必要があると感じた。

資料においては「健太」が「渡辺」に対

して偏った見方しかできず、「渡辺」の頑張りや苛立つ様子を押しさえる必要がある。また人にはよい面も悪い面もあることを伝え、「健太」＝「悪」、「渡辺」＝「善」という捉え方に終始しないように心がけたい。

3 発問の工夫

「何だよ。点数稼ぎかよ。」と言った健太の気持ちを考えさせる発問では、自分の中にも健太のような心の弱さがあることも考えさせたい。

中心発問では、心のノートを活用した。特に、相手の言動にホッと心があたたまるという P.56 の部分が資料内容とかかわりの深い部分であり、生徒の「気付き」への支援となった。また、「人のよいところを素直に認められない人にアドバイスをするとしたら、どんなことを言ってあげますか。」という補助発問を行うと、自分自身のことを考えにくい生徒も自分なりのアドバイスを考えることができていた。

4 生徒の反応（授業後の感想）

心のノートや絵を書く作業から、一人一人に違った考え方があることを実感したという感想が多かった。自分の勝手な固定観念で人を見てはいけないという意見や他の人の気持ちを考えられる広い心を持つ人間になりたいという思いを持つ生徒もいた。

5 実践者からの一言

実際にあった出来事を文章化したため、生徒にとって身近なものとなりえているようである。授業後、「健太」や「渡辺」との類似点や相違点を友人同士で言い合う姿も見受けられた。

（大野東中学校 片岡由美）